

未来をひらく

平成27年度 北九州 子どもの未来をひらく教育セミナー開催!!

本年度も、8月11日に、本市の教育施策の一端を、広く市民の皆様が発信することを目的に開催しました。

児童生徒、教職員をはじめ、保護者、市民の方々など、延べ2,600名を超える参加がありました。このセミナーの様子を、ご紹介します。

平成27年度

心の教育フォーラム

中学校【道徳の時間】

主題名：「夢や理想を求めて生きる」

～人間としての生き方について考えを深めた50分間～

今回で3年目となった「心の教育フォーラム」は、中学校で行う道徳の時間の授業を公開しました。ステージ上には、湯川中学校第3学年4組の生徒26名(希望者)と担任の前田訓明教諭に登壇していただきました。

授業は、資料「風に立つライオン」(出典 廣済堂あかつき)を活用し、夢や理想を求めて生きることの素晴らしさについて考えました。厳しい環境に生きる人間の生死と向き合う医師の理想や信念等に触れ、人間としての誇り高い生き方について考えを深めました。



また、資料「風に立つライオン」の作者であるさだまささんご本人から湯川中宛に届いた楽曲に対する思いをまとめたメッセージも紹介されました。生徒の感想には、「自分自身に自信や誇りをもって自分の道を歩んでいきたい」というものがあり、夢や理想をもって人生を切り拓こうとする意欲が高まったことが感じられました。

この他、京都産業大学の柴原弘志教授の講話もあり、「夢や理想を求めて生きる」ことの大切さについて、生徒だけでなく、参加者全員で考えるフォーラムとなりました。

今後も学校と家庭と地域が共に人としての生き方について考え、子どもの心の教育を推進していきたいと考えています。

めざせ!家庭学習マイスター

第2部におきまして、平成25年度より本市教育委員会が行っている「北九州市家庭学習マイスター賞」の取組について紹介しました。市内の児童生徒へ家庭学習の定着と充実の啓発を図り、保護者、そして先生方にもご支援を呼びかけました。

昨年度受賞者の取組から特徴的なところを紹介した後に、児童生徒本人がインタビューに答える形式で取材を行い、ビデオで紹介しました。児童生徒は、それぞれの自主学習ノートをより分かりやすくまとめるための新しい工夫や一冊の本を家族で読み合う読書の取組などを説明しました。また、家庭学習をすることで好きな科目が増えたことや、苦手だった教科が好きになったことなどを語っていました。昨年度4月に各学校に配



布した「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用して取り組んでいることを紹介した児童生徒もいました。

特に中学生は、部活動や塾との関係で、家庭学習を続けるためには時間の使い方が大切であることや、無理なく続けるためには、工夫が必要であることを実感しているようでした。

最後に、「家庭学習マイスター賞」の募集内容を紹介しました。その際に、周囲の大人の支援があって子どもたちの家庭学習や読書習慣が定着し広まっていくこと、そして、これからも励ましの声かけなどの協力をいただくよう、会場の教職員や保護者の方々に呼びかけ、紹介を終わりました。

平成27年度 北九州 子どもの未来をひらく教育セミナー

環境未来都市「私たちの実践」

本市の環境教育施策の説明と学校における環境教育に関する取組についての実践発表を行いました。
 施策の中からは、環境キャラバン隊による活動報告、実践発表としてユネスコスクールの鞘ヶ谷小学校の児童が取組の報告をしました。

本市の環境教育の施策について

- 本市環境教育の概要、北九州市「環境教育プログラム」に示している各学年段階における環境教育の目指す力を説明し、本市の環境教育推進事業である環境体験科と環境キャラバンの位置付けを説明しました。
- 特色ある環境教育等を推進する学校を北九州市ユネスコスクール推進指定校に指定し、ESDの視点を踏まえた推進拠点校の役割を担っていただいていることを紹介しました。

北九州市ユネスコスクール推進指定校

	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区
小学校	藤松小	藍島小	市丸小 すがお小	赤崎小	大蔵小	竹末小	鞘ヶ谷小
中学校	早鞆中	菊陵中	湯川中	高須中	尾倉中	黒崎中	中原中

●平成26年度の環境賞受賞校の紹介をしました。

学校教育環境賞	藤松小、小森江東小、鞘ヶ谷小、早鞆中、尾倉中
子ども環境賞	曾根東小、泉台小、湯川小、日明小
環境リーダー賞	小池特別支援学校
特別賞	すがお小

鞘ヶ谷小学校 実践発表

ESDの推進を図る取組として、校区の環境に視点を当てたグリーンマップづくりの実践発表を行いました。

大学との連携で行ったこの取組は、「土地と水」「文化的象徴」「グリーン経済」など8つの視点で校区を調べてマップを作成し、その過程で見えてきた校区のよさや課題を話し合ったことが報告されました。

実践を通して、自分たちが暮らす地域に愛着をもつとともに、地域を守ろうとする実践的態度や環境に対する見方や考え方が育まれたことが伝わりました。



セミナーアンケートより

「とても参考になった・参考になった」という回答が、教職員では96.5%、保護者では98.1%でした。特に、本市の環境教育の取組がとても充実しているといった感想をいただきました。

また、自分の地域の環境について学習することは、環境に対する興味・関心を高めるとともに郷土愛を育むことにもつながるといったご意見や自校でもグリーンマップづくりを実践したり、家庭でも子どもとともにできることから実践したりするなど、積極的に取り組みたいという声がかかれ、大きな成果を得ることができました。

北九州市環境キャラバンの活動と環境子ども会議の報告、決意表明



次世代の環境未来都市を担う子どもが「自ら考え、判断し、協力しながら、環境に働きかける市民環境力」を身に付け、子ども環境リーダーとして活躍することを目指して3日間わたる環境体験プログラムを行ったことを報告しました。

また、環境子ども会議の様子を画像や動画を使って紹介し、最後にキャラバン隊の代表生徒が、子ども環境リーダーとしての決意表明を行いました。

いじめ防止サミット in 北九州

平成27年8月10日(月)、11日(火)、いじめ防止サミット in 北九州を北九州国際会議場、A・Mビル、西日本総合展示場、北九州芸術劇場で開催しました。市内百三十一校の小学校と六十三校の中学校から代表児童生徒が各二名ずつ集まり、市内全小・中学校でいじめ撲滅に向け取り組む内容について話し合いました。このサミットを開催するにあたり、各区の小・中学校から代表各二名、計十四名で実行委員会を組織し、4月から三回の会議を開き、サミットを成功させるために話し合いました。その中で、「いじめをなくすことより生まないことが大切なのではないか」という意見が出され、そこから、「昨年度のいじめ撲滅の取組を振り返り今年度どのように続けていくのか」、「たくさんの人とつながり、よりよい人間関係を築くためには、どんな取組をしたらよいだろうか」という今年の議題が決まりました。

10日(月)は、二十一グループに分かれての討議があり、どのグループにおいても活発な意見交換が行われました。全体会では、今年度の取組として、「他の学校の良い取組を取り入れながら、昨年度の取組(スローガン、宣言文、クローバーキャンペーン、ポスター、いじめを生まないスマートフォンや携帯電話の使い方)を今後も継続していくこと」が採択されました。また、新たな取組として「いじめゼロ全市一斉あいさつ」の取組を進めよう」と「みんながスクールカウンセラージュニアになろう」が採択されました。

11日(火)には、保護者や教職員など約千二百人が参加し、前日の採択の報告と長尾小学校の高松教頭を講師に招いた「北九州市対人スキルアッププログラム」を使った、気持ちのよいあいさつの仕方についての学習を行いました。最後に、満員の来場者全員で手をつなぎ、大きな声で、いじめ撲滅スローガンを唱和しました。



新たな取組

●「いじめゼロ全市一斉 あいさつ」の取組を進めよう

毎月0のつく日に、全市であいさつ運動を実施します。いじめを生まないためには相手を理解することが必要です。より良い関係を築くための第一歩が、あいさつです。人と知り合う。話をするきっかけとなります。

●「みんながスクールカウンセラージュニアになろう」

スクールカウンセラージュニアになるということは、人の話を聞く人になるということ。人とつながり、よりよい関係を築いていくためには、相手の話をしっかり聞く姿勢が大切です。

昨年度からの取組

●スローガン
なくそういじめ！ふやそう笑顔！

●北九州市いじめ撲滅宣言

・私たちは、自分やみんなの心と体を気にかけて、大切にします。

・私たちは、あなたの悲しみを自分の悲しみとして受け止めます。

・私たちは、いじめを許さず、仲間と一緒に考えます。

・私たちは、自分たちができることから実行し、いじめのない北九州市をめざします。

●いじめを生まない

●ケータイ・スマホの使い方宣言

- ・ケータイ・スマホ 夜10時以降
- ・相手を傷つけることは使わない
- ・困ったときはおとなに相談する

●クローバーキャンペーン

自分はいじめをしな
いと決意した児童生徒
がクローバーシールを
名札等に貼る「クロー
バーキャンペーン」を今
年度も実施します。

●いじめ撲滅啓発ポスター配布

今年度も、多数の応募の中から選ばれた優秀作品を各学校へ配布しています。



子どもたちのよりよい未来をひらくために、今回採択された取組が広がっていくよう、いじめ撲滅強化月間
平成27年9月1日-9月30日
協力をお願いします。

学校の取組みが認められ、全国表彰を受けました!

すがお小学校

第22回 コカ・コーラ環境教育賞
活動表彰部門 最優秀賞を受賞

昨年度に引き続き、本年度も本校の環境教育の取組が、コカ・コーラ環境教育賞の活動表彰部門の最終候補にノミネートされました。

本校では、5年生の総合的な学習の時間において、紫川をふるさとと川として大切に守り、未来へとつなげる意欲と実践力を高めることを目的として、「紫川とふれあい、紫川に学び、紫川を大切に環境教育」を推進しています。3年前の5年生は「森と海のつながり」、2年前は「紫川の生き物」、そして昨年は「ホテルの舞うすがお小」といったようにテーマを決め、毎年紫川学習に取り組んできました。その具体的な取組は、「地域」「保全」「循環」という3つの言葉をキーワードに、清掃活動、いかに遊び集会、水生昆虫採集による水質指標判定、紫川の昔の様子聞き取り調査、川の浄化につながる竹炭づくりといった活動を継続して行っています。

本年度、北海道夕張郡で開催されました「コカ・コーラ環境フォーラム2015」の最終選考会におきまして、コカ・コーラ教育・環境財団より最優秀賞を頂くことができましたことは、日々本校の教育活動にご支援ご協力を頂いてきたスクールヘルパーの方々をはじめとする地域の方々や保護者の方々、開校以前より本校に在職され環境教育に携わってこられた先生方のお陰です。感謝の気持ちでいっぱいです。



鞘ヶ谷小学校

日々の学習を積み上げ
大賞に続く理科教育賞を受賞

鞘ヶ谷小学校では、生活科・理科教育を校内研究に据えて7年目。日々の授業の中で「小さな科学者をめざす」「未知の世界を探検する」学習を積み上げてきました。

その研究に対し、日産財団から2年間の研究助成の機会を得て、昨年度末には全国23校の同時助成校が研究成果報告を提出しました。そして、その中の代表3校に選ばれ、今年7月に日産ホールにて成果を発表することができました。結果、大賞に続く理科教育賞を受賞し、本校の成果を示すことができました。

受賞理由は「研究が多岐にわたり、児童の思考力・表現力が伸びている」「ノート指導の工夫とともに教材開発や学習環境づくりの成果がよく見える」と評価されたことです。今後は①科学的思考力を深める②自学ノートでチャレンジ学習を推進する③理科の学びを他教科・他領域・研究施設とネットワークする学びを目指しています。また、市内10校目のユネスコスクールとして「夢を形にする 夢が形になる 創造力のある学校へ」とESD(持続可能な社会を目指す教育)の実践を進めていくことが期待されています。さらに「市内の理科教育の牽引役としての使命感を持ち」前進していきたいと夢をふくらませています。



第2回 “Be Active!” English Camp開催

“Be Active!”を合言葉に、8月6日(木)～9日(日)の3泊4日、若松区にある玄海青年の家において、第2回イングリッシュキャンプを開催しました。外国人と交流しながら、3泊4日の英語生活を楽しく体験し、積極的にコミュニケーションを図り、自分の英語力を高めるために、市内中学生69名が参加しました。

1日目、緊張と不安な様子をうかべながら、69名の参加者が、玄海青年の家に集まってきました。手作りの『北九州パスポート』を使い、ALT(外国語指導助手)から、英語で一問一答の入国審査を受け、いよいよイングリッシュキャンプがスタートしました。4日間の主なプログラムは、

- ALTが英語で行う授業体験(理科・音楽・体育など)
- 英語ウォークラリー(チェックポイントでは英語の問題を解く)
- カレー作り(ALTや留学生と野外炊さん)
- 留学生との交流会(日本と留学生の国の文化紹介、Q&A等)
- 英語スピーチ発表会(「キャンプを通して得たもの」について) など、

2日目以降は、基本的に英語で生活することに徐々に慣れてきて、積極的にALTや英語科教員と英語で会話する様子が見られました。

最終日には、このキャンプで学んだことをグループの中で各自スピーチを行い、充実感溢れる中、第2回イングリッシュキャンプは幕を閉じました。生徒それぞれの心の中には、「楽しかった」という思いだけでなく、英語学習に対する目標ができ、それに向かって努力する強い思いが生まれたようでした。



このキャンプに参加して、英語を使って、いろいろな国の人と関わり、もっと海外への興味が大きくなりました。そして、もっと英語で、いろいろな国の人と話したいと思いました。そして、このキャンプでは、『積極性』を特に学ぶことができたと感じています。

私は2年生の間に英検3級を取得したいと思っています。そしていつかは英検1級!ということを目指しています。目標を達成するために、積極的に頑張っていきます。

このキャンプを通して、他国の人々との関わり方や積極的にコミュニケーションを図ることの大切さを学ぶことができた。この4日間で自分が大きく成長できたことを感じる事ができた。

また、このキャンプに参加したことで、物の見方や考え方が変わった。何事にも積極的に“Be active!”というこのキャンプのモットーが、私のモットーとなった。

これからたくさん英語を学び、世界で活躍できる人になりたいと思っている。

～ 生徒感想文より ～

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果について

調査

小学校6年生・中学校3年生を対象とした本年度の全国学力・学習状況調査が、4月21日(火)に全国で一斉に行われました。教科は、小学校では国語、算数、理科、中学校では国語、数学、理科で、「知識」と「活用」に関して調査しました。また、同時に生活習慣や学習環境についても調査を行いました。

調査結果から見られる成果と課題

成果

- 1 小中学校とも、昨年度と比較すると多くの教科・区分で改善されています。
- 2 全国平均正答率を上回る学校数が多くなりました。
- 3 中学校における学力の底上げが見られました。

課題

- 1 理科については、全国平均正答率と比べると差が開きました。
- 2 教科・区分によっては、二極化の傾向が見られるものもあります。

調査結果の公表と活用

調査結果については、各学校のホームページと学校だよりでお知らせします。なお、本市と各学校では調査結果を受けて、今後の教育活動の充実や改善に向けた取り組みを行って参ります。ご家庭におきましても、これらの調査結果や各学校から配付される個人票を参考にするなど、家庭での学習にお役立てください。



学校開放週間



教育委員会では、毎年「学校開放週間」を設定し、保護者や地域の皆さんが学校を訪れ、授業や行事など、ふだんの学校の様子を見ることで、学校教育への理解を深めていただいています。

この機会に、子どもたちの学習の様子を見に学校に行ってみませんか。多くの方の来校をお待ちしております。

期 間 平成27年10月24日(土)～11月8日(日)
※学校によって、実施期間が前後する場合があります。詳しくは各学校・園にお問合わせください。

対象学校 ・市立の幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
・北九州市立高等学校
・戸畑高等専修学校
・高等理容美容学校

学校開放週間は「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーン」の協賛事業です。



ひとみらいプレイス

ひとみらい交流ウィーク

今年も11月4日(水)から14日(土)まで副都心黒崎の賑わいづくりを目指す「ひとみらい交流ウィーク」を開催します。

コムシティ内では、ひとみらいプレイス各施設の利用団体が日頃の活動成果を披露するステージ発表や作品展示のほか、多彩な催し物があります。

また、11月8日(日)は曲里の松並木公園で黒崎大雑貨市「ルガル・ポニート」、14日(土)は黒崎商店街エリアで小学生が職業体験する「黒崎こども商店街」が行われます。

さらに講演会やさまざまなセミナーも開催され、老若男女どなたでも楽しめます。



平成27年8月17日に行われた第1回 北九州市子ども読書活動推進会議の様子

北九州市子ども読書活動推進条例が制定されました！

平成27年6月定例市議会において、議員から提案された「北九州市子ども読書活動推進条例」が全会派賛成で可決され、7月3日に公布・施行されました。本市のように、子どもに特化した読書活動を推進する条例の制定は、全国でも初めてではないかと言われています。

子ども時代の読書活動は、子どもが充実した人生を送るために必要となる考える力、感じる力、想像する力、表現する力等を身に付ける上で極めて重要です。子ども時代は、非常に短く貴重であることから、そのかけがえのない時期を大切に、全ての子どもが楽しく自主的に読書に親しむことのできる環境を整備する必要があります。

条例では、市の責務や市民の役割のほか、付属機関である「子ども読書活動推進会議」の設置、「子ども読書活動推進計画」の策定、子どもの読書活動の推進拠点となる「子ども図書館」の設置、「学校図書館の蔵書の充実及び学校司書の配置や能力向上に努めること」などが定められています。

北九州市子ども読書活動推進条例が制定されました！

教育委員会の事務管理及び執行状況の点検及び評価について

教育委員会では、「子どもの未来をひらく教育プラン」「生涯学習推進計画」に掲載された施策について、毎年度、点検・評価し、その結果を議会に報告するとともに、市のホームページで公表しています。

今年度の評価結果(平成26年度実績)は、全15施策のうち、A評価(大変順調)が「地域と連携した学校運営の実現」の1施策、B評価(順調)が「心の育ちの推進」「特別支援教育の充実」など14施策でした。この結果を今後の施策に生かし、効果的な教育行政の推進に努めてまいります。

北九州市教育委員会事務の点検・評価ページ

http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kyouiku/file_0043.html